



增續
細訂

誹諧山乃井乾



讀書樂

序



書肆星運堂主人山の井石少冊を
 懐なつかしく為なす授たまへんことには抑おさめし書を成する年
 久くくも或ある傳つたへる法あり證あらはする文を字を結む連ねてはる
 事を滿みちありしをみるに訂しめし抄の
 書を成するに他を不あらずにあるに四時

讀書樂

序



書肆星運堂主人山の井石少冊を
 懐なつかしく為なす授たまへんことには抑おさめし書を成する年
 久くくも或ある傳つたへる法あり證あらはする文を字を結む連ねてはる
 事を滿みちありしをもとりては訂おしめてはる
 書を成する年には他を不あらはする年を四つ時に

うつちのりおと忠^{ちゆう}惟^{ちゆう}を流^{りゅう}へ色^{しき}にせんとせ
ら^{おとやけと}事^{こと}神^{かみ}ま^ま度^た也^{なり}佛^{ぶつ}の^の法^{ほふ}は^は草^{くさ}木^きの^の類^{るい}
食^{じき}類^{るい}を^を持^もつ^つま^まと^と好^{この}む^むる^るの^の由^{よし}を
考^{かう}ふ^ふ者^{もの}の^の意^いを^を留^{とど}め^めて^て教^{しやく}を^を分^わか^かす^す由^{よし}の^の
井^いの^の佛^{ぶつ}も^も公^{こう}法^{ほふ}の^の如^{ごと}く^くぬ^ぬれ^れぬ^ぬ也^{なり}也^{なり}なる^{なる}是^{これ}
唯^{ただ}於^に此^{こゝ}に^にむ^むら^らく^く吾^{われ}に^に對^{たい}し^{して}の^の事^{こと}を^をお^おも^もは^はす^す所^{ところ}を^を
其^{その}の^の私^し私^しと^とし^{して}て^て國^{くに}字^じは^はく^く也^{なり}乃^{すなは}ち^は此^{こゝ}の^の味^{あじ}も

た^たの^の如^{ごと}く^く我^{われ}の^の意^いを^をの^の取^とり^りと^とし^{して}て^て其^{その}の^の事^{こと}を^を考^{かう}ふ^ふ者^{もの}も^も
追^おひ^ひけ^けず^ずら^らか^かれ^れぬ^ぬ事^{こと}も^も法^{ほふ}の^の如^{ごと}く^くに^に考^{かう}ふ^ふ者^{もの}も^も
考^{かう}ふ^ふ者^{もの}の^の意^いを^を留^{とど}め^めて^て教^{しやく}を^を分^わか^かす^す由^{よし}の^の井^い
法^{ほふ}再^{さい}考^{かう}を^を考^{かう}ふ^ふ者^{もの}も^も我^{われ}の^の意^いを^をの^の取^とり^りと^とし^{して}て^て其^{その}の^の事^{こと}を^を考^{かう}ふ^ふ者^{もの}も^も

三井 素山



文化 あり 長月

○初子日 子日のあそび 小松ひく 子日の壺 たるひの

らに虫玉の帚とい葉のとい子に小松をえとて正月初子 日こびひすり屋とを記をむる事と袖中おまわり ○つる

甘菜 初より子とくさなづかんとて 甘菜 アサギ くるま

エ 甘菜 アサギ くるま アサギ くるま アサギ くるま

司より 横中にてとてとらとて 或い十二程供むる事 ありし由公事根原子伝に申よは昔藤原よひよもぎもわたり今

い左家七日に福わりとてこがきとていひ侍り六日晴より七日を

やととてわらふと登よのそと唐土の多とり奉りまるといふ事と

し侍り ○初寅と系 仇 ○よごめら 仇 上の寅乃日 多

りといふ所のわとまのいせよ火あふといまて上より不そあそとていふ

○お宅寺天狗宴 仇 二日 強指 ○外杖 ウツ 卯杖 ツチ 浄杖

をく此本ともをみ尽すつみきりて二本と米よゆひておちりけよたて

まらとてはたとよより公事根原よを原成物後よ卯つちとわり卯

杖と同一 アサギ 年中の怨忌を返へるよより内書よいなる物と

ニ光陰をい説こいよの世子がえをより卯杖とて左家あそとていふ

ハ二尺あちりの白くけつりたる本よひくけのくつとてまといてクリカ

ラ詠のくちまはくまら物い後か納を樹草紙よ卯杖のふりーと

りよ事 ○二宮大食 ニ 二日之 ニ 二宮とい東文中之の事あり

を侍 王 以下二宮よまとして終礼ありて大食

まはく事あり ○朝歌行 テウ 二日之 ニ 是の天子の年始よ上

公事根原 皇 并に母后の文にい事

る事あり公事根原 ○臨時客 二日入り是の折改用白家子
形觀の字礼記あり 妻の始大臣以下の上達

と申すまてあそひ多事のある之定まる公務かしてあつぬえん
のちと申也年中行事(原氏物語)ハハド多とあり此を

さ、むくろ之り、朱の毛と不用して ○三ヶ日、このころの
即ち乃くも笏抱子そくふと

連ふあり、たうや 十瘡万痛亭(正毒式)えり乃
御茶の三ヶ日きりめして

日は西より中ときより限きよつれてを名指しつけて
顔の法耳のうらにけらるゝとを公事根原たうやといか

新紫のゆきあたらふといひたり ○松乃内 世後 ○春
正毒式より後万病亭といひ世後

あが、改ま之由、履端之慶 人とかえ

する何あり ○西復新之慶 是日正月子書と心く人を
書言故事 ともいふこと書言故事よ

○叙位 五日或六日法信の事考と考 ○白馬御會
七日あをむまのせら御弓の考 白言をあをむま

あいのと正月あをむまを又いふ年中の御氣を去と

そぬよ七疋ひきや天子の成決あつ事とや

たてあつるは弓の考と云ふあり 天皇の御氣を去と

こらも七疋あつるぬよこれを ○七日正月 世後ハ
たといふ事根原 世後ハ世の世

のあつるのを用ひ侍之 荆楚果時記にも正月七日 ○人日
俗七種の茶を煮て之いへるありと侍りや

○靈辰 故事 ○人を帳子貼を 車文正月一日を
二日の御三日の御

此日仁安殿を以て行ける文人歌と修る詩と
化て出あふく海ぞう高事とくや
○吉田清稔千ヨイ文 仇十九日 女島か

○外記の政始三ノコトハシメ 吉日とえらふ外記の恒例修河の政とそりと
ころよ友ある故正月より當年の政と行

始り ○御忌ギヨキ 仇北廿日法隆上人の忌月より十九日
知し けり けり けり 知忌院と法隆寺
○福壽フクス

くさ 仇えり草ともしりり ○東風トウフウ ころあふく ○沙サ ころる
えりに花咲とく

かきりり ○みてそくる仇云沙ひちちり氷と ○魚氷イシ
新のひま

子のやり 月令ままの好 ○雪ユキ ころる雪 ころる雪
五り乃候し けの水 雪さゆり

雪のこえり 雪のまづく 雪ある仇雪あるまじ仇
雪まのより 貞徳はあり 沙雪仇 ○夏水ナツミ の節

西月の ○柳魚カサガシイワ と祭ニツル 令 ○本乃芽 ○下シタ せえ或は
中

いつし 但月令に草木萌キサレ ○くたち仇草也 蟲海集二
勢い水の水の節の末也 十四番の花の中はる

水の節に一假よまわらひい菜乃屯三月といふ ○鶯ウ 菜
不存よよく 莖まとくまらと松まま

仇。水ミヅ の菜菜 ○根白ネシロ 菜菜 ○若草ワカクサ
ひま 或二月在

今。蚊子の糸カガミ。よめがも紅ベニ。ふすはあカガミとめ口

ふきの ○梅ウメ 二の花まつ草 白ひ草カガミ 花をカガミ 又草カガミ 白梅
たう日 ○梅ウメ 花梅 花梅 繪梅 行華梅 信濃梅 好文本

常品梅カガミ うらひまの梅と ○柳ヤナギ わとやまカガミ 川柳 凡
同をと讀しむ梅並集也 ○柳ヤナギ 又草 川をひ柳 川をひ草カガミ

○廿彩の能 七日より十日迄 ○二月堂の行

遺教經 佛涅槃

佛の別 二月のついで

巖我柱炬 佛十 ○奥福寺常

樂會 拾苾 ○積塔 十六日或石塔とかがり ○春分乃

二月の ○松月夜 ○社日 或立をの仔才五戌日

治禪 佛の神 舊水と合せさるゆ

社翁 社の神 舊水と合せさるゆ

宗寺寂勝 十九日より二十日迄 ○天王寺聖靈

會 廿二日聖徳太子の由忌日 ○小野の由忌日 廿五日

永子法讀經 或三月中

天孫の由忌日 廿五日

天孫の由忌日 廿五日

天孫の由忌日 廿五日

天孫の由忌日 廿五日

大取若 行法公リ ○二日灸仇 ○同出かり口多の二八月あなわ
る半ちしめの季と

字をて秋あり 彼ヒ岸ガン 仇 時ヒ心心 仇 是も去後の枝
字の秋に秋卒

天の冥ふ片子樹あり二月子夜罷きて七日七夜に一なる状は月
は実なる林を帝釈ホ各集りてはるは実の七日乃程世界の是

人忍人の名をさるせり故にはは者七日の事と ○くらあを元
るる事と解するといふ 龍樹菩薩の記より

と出子仇 ○夜カ々カ 仇 一とヒ鳩トとたヒ命命 ○純ツ尾キ乃ヲ

夜カ 自尾の夜は夜云昔政を夜々の尾と吾鳥のきと去るは
とて白き好んで往くといふ 夜は夜と吾とてて山

る公るりし ○鳥の巢ス桑桑 仇 ○鳥のカ粥カ ○雉キ子子 雛ヒ

雛ヒ 雛の鳥后の雛と雛といふは律と ○きくすくカ 仇 雛
さあては世よ雛と雛ととりし

とより物と向う山朝夜すこさるり物の雛よあをむまへ
は去る負極云去の鳥小雛のあくふとまてと来未のゆきさる

と鳴る物とと鳴るもと鳴るさうかうさうさ
すこさるといはたのあはぬ中よこさる事と ○燕ヒをヒをヒをヒ 仇
ははる

は巢 ○白ヒをヒ 仇 或は別云は ○帰ヒるヒ 仇 鳥の名は鳥のわん
鳥の鳥よかきこと

むまひてもをあり ○雲ヒ雀雀 仇 吹て取る事とひまをり初ヒ 仇
ははる

○うそヒ 仇 琴ヒ ○こヒゆヒをヒ 仇 ○すヒめヒ子子 仇 口ヒ桑桑 ○蝶ヒ
ひく

胡蝶ヒ 蝶ヒ 蝶ヒ 蝶ヒ 蝶ヒ ○蜂ヒのヒ巢巢 仇 ○蛇ヒ 仇 ○蛙ヒ 仇 尻ヒをヒをヒ
あけたものてふ

あけたものてふ

口ひきぎごふ口
くる子口井桂口
○地虫出ふ口
○うげろふのめゆり

いとゆふ糸あそふ
○猫さく糸猫の
○冬冬のつ

りる日ハッの初餅ハッ
○餅餅脰脰
○とらとと餅餅
○飯蛸飯の志

あつこ日あの酉酉
○ちりかごありち
○初稲初ひり

月令よ始電
○八重八の梅梅
○黄梅黄の花

と結との初毛初
○初桜初
○枝孝枝桜桜

○糸桜糸の玉玉棧棧
○ぼぎ木ぼ
○苗代苗菓菓

○焼也焼
○やものすやきき
○うぐろうのろ産産

○萩萩の焼系焼
○畑畑屋屋
○田田ととままくくのの苗苗

代代ののろろみみ系系
○松松ままくく
○麻麻

すくすののろろどど枕枕
○ととままいい
○ぼぼくくしし

○防風防ののささみみづづまま
○草草くくづづりりきき
○草草れ

みみななのの菊菊乃乃苦苦菜菜
○廿廿厥厥

○廿廿厥厥

○廿廿厥厥

○廿廿厥厥

○廿廿厥厥

根原子 ○ 枕花の節

三日枕の西枕草餅口蓮餅口小八
多わさ口ひいる起ひ柳餅口小八

枕花と西よひうてのめい百病を除き疑色を消すと本草子
ありとやや枕花餅といつ事又枕花餅子枕花生玉間柳葉餅
金條と子詩句と上巳のちりよ出さうそ木の虫くしてはも枕を
ひ柳の餅をとりけけりや草餅はむり一周の虫玉に丸くせしと玉を味
甚苦しとぬ世もあまある人草餅と虫玉に丸くせしと玉を味
とめて宗廟子とてまらるへといつそくちやうと改
りて世治り侍り十節縁よ之也一先師貞徳云鶯合ハ三
月三日のあるをまに成とよ説わう懼あるを合もわくは東
まといつをすり事あれい報りてまへさるといつ但唐の明
皇は信の事子開教とありまう位よはさるひてもは鶯合と
か子人幸子五百人とてをてをと約いせりる事と報子出り世
清宮各もひるをと報りてはなやと侍り本朝は朱花の

天竺の年三月四日は鶯鶯十番あり一由或記にみり先師も報と
恒雨と定められ侍らひい事をと持てとがうう一ひいるわをひり
るな故もわねばうちやうせてい報る一原氏に侍りいえりも我
分の報もひり事由侍まひりよかきぬ事と報りり但柳うひ
一らひのいひ比乃俗に記してよの事おも成熱下やと
新續大鏡は集りてかきくをういひ侍り

アヲキ 青をふむ

唐ノ俗上巳ニ士女遊戯スルヲ云也又三月三日上踏青鞋
履と子事盧公紀統飾侍あり園撰活法ニハ

人日ニ蜀人遊 ○ 御灯と小斗にそまふ子 三日月のい小山
戯ル事云く

三日月のい小山 三日月のい小山 三日月のい小山
三日月のい小山 三日月のい小山 三日月のい小山

師方の家勝と云 七日はち天衣を皇の御衣と云毎年七ケ日
言務五経と海せしまけらとあり日

ろりし等もろりのまぎら。住吉乃塩子（三ノ）。土佐

の海子（同）。石山祭（同）。粟は祭（ア）

一桑ち祭（セ）。泉涌ち（ユ）。開山忌（カイ）

水尾祭（ミ）。雄法（ホ）。花（ケ）。や（ヤ）

吉野の云式（キ）。礼拝（レイ）

祇園一切経會（キ）。比良（ヒ）。壬生（ニ）

の念佛（ニ）。勸学（ク）

會（エ）。保胤（ホ）。紀伊（キ）

の他（タ）。嵯峨の大念（サ）

仏（フ）。千本念佛（チ）。浅草（ア）

糸（イ）。御身（ミ）。法（ホ）

供（キョ）。稲（イ）

此日弘法大師入定の日ありて奉ち法事あり。稲（イ）

此日言尾の法花をまやまうにまよと云ふとかく拍（バ）と野（ノ）と

花（ハ）を但ありあよ言（コ）山（ヤ）を成（セ）らうけとめ（メ）やま（マ）ひ（ヒ）と（ト）織（オリ）

川ありと（カ）。ま（マ）ま（マ）ま（マ）。吉野の云式（キ）。一（ヒ）。礼（レイ）拝（ハイ）

の祇園一切経會（キ）。比良（ヒ）。壬生（ニ）

の念佛（ニ）。勸学（ク）

會（エ）。保胤（ホ）。紀伊（キ）

の他（タ）。嵯峨の大念（サ）

仏（フ）。千本念佛（チ）。浅草（ア）

糸（イ）。御身（ミ）。法（ホ）

供（キョ）。稲（イ）

此日弘法大師入定の日ありて奉ち法事あり。稲（イ）

世の中祇園にもあり西の桜（西山あり）佐藤ち口名木あり
太さくう日いせさくう日きりぐう日は戸桜（湯桜）鶴子にを（仇）
塩が満日（湯賢名あり）山府君日（山府）雛桜日（湯）揚を妃日（白）桜日（系）
くま日（系）すりさくう日あり（紅）桜日（墨）深桜日（深）草三馬（虎）の尾
仇太さくうの後桜乃ううと（仇）云まや（後）又草（尾）あつと名草日
吉野草日（深）草日（か）草日（家）桜日（人）家子（咲）桜日（桜）の志木
にありま山桜もを桜もま山（咲）庭よ咲とつよと名木のやま
ま（つ）るいぬま（と）と桜戸の桜あつた家の戸の桜田の桜おなくと
ふらふら桜持の桜を存ありく事とも桜の比猶あり事直（い）了
まきりやつ塩が満日や（き）ひ太山ぶ（ん）法掃ちととの尾子との
句は花とく桜とり白ひるどやのあつとひあつての桜とを呼
説傳一又三桜まよとられてさくといひてもまこと云く法傘
○花の錦○雲の雲○花は雪○毛代めき

○花乃波○花の波 みき花と名ありとる事こそ中
に花の雲花の所いそ一か別
あり（あ）○花の鈴（花）は（は）○花鳥 花よやとれりるをこ
又とて花と名とを
い○花乃笑（花）の類（花）の白（花）秀（花）花（花）び（花）花（花）
○花園 花田（仇）花の若（花）花の雲（花）乃麻（花）
○花の心乃花 貞徳云人の公も夫
人のうまよとといひさる酒あり
公の花の心花の心（只）舟（若）よまき人の花（よ）きりてゆふと（い）
心花（子）ありはを係（ま）わく酒の花も（い）ま（心）心花（も）成（心）
○花衣 花の衣（花）花の袂（花）花の袖（花）花の
上（さ）よ（ま）あ（ら）く（ま）花（を）と（め）云（い）
○花四 花の四（花）花の四（花）花の四（花）花の四（花）

祭ヒト。江別ノ幡祭ヒト 中卯。手安天神祭ヒト

とに永。伊勢神衣祭ヒト 十日麻枝の連といふ氏人神といふ
系午日。て及む神を減て神のまをうと

公事。○日吉祭ヒト 中申月山王祭之大言取ま子二ノ言ハ五子
より十神作三ノ宮以上七社の神衣形唐時

とて法供。○加茂祭ヒト 中西法形わむ桂わらうう上段法
ちあり也。祀下加茂神衣あゆのあふりふと

法形の日といふころよく其桂のわらううとくふ思ふ。○中山
世俗よりあひあうといふりたふ祭といふは祭の事あり

祭ヒト 同日これ祭祭よおん。○吉田祭ヒト 中子日吉田の妻日比事之
丁ふふ祭あり公事。中納言山法門建立あり

○開白の加茂祭ヒト 中申五月の祭車にて地下及上人あり
市幣神衣をどかたけ中納言持たふあり

○三枝祭ヒト 三枝の祭といふは
白と子物とをせむらひの祭といふは
祀子まをふり祭あり公事

さらぬま云に神祇令に及の。○千園子ヒト 仇十六日之井ちの鬼子母神
まらうの祭のせらる公事。子喜のまらうこがこちあり

○暖裁祭ヒト 中申月祭祭
のまらうと云。○向日明神祭ヒト 中
祭ヒト 中。清水地を祭ヒト 九日。當麻法事ヒト 十四日中納
祭ヒト 中。土塔會ヒト 天五ち。日光祭ヒト 十七日。菅ヒト

祭ヒト 中。花伝ヒト 正日言地大郎の。○神祭ヒト 忌まふ

祭ヒト 中。梅天ヒト 孟夏の元といふ。○和清の天ヒト

祭ヒト 中。花伝ヒト 正日言地大郎の。○神祭ヒト 忌まふ

祭ヒト 中。梅天ヒト 孟夏の元といふ。○和清の天ヒト

にありハナ氏ハナのハナ。小満セウマン節ノ四月ノの。麦ハク乃ハナ秋ハク風ハク

○ハク麦ハク秋ハク月ハク令ハク小満ハク。青麦ハク茶ハク花ハク草ハク。かりハク尺ハク草ハク

北日ハク草ハク名ハク牡丹ハク。芍薬ハク。杜若ハク

○ハク芍薬ハク。かハクろハクあハクひハク。玉ハクまハクくハク葛ハク。一ハク八ハク。志ハクやハク

○ハクたちハク葵ハク。こハクあハクひハク。玉ハクまハクくハク葛ハク。一ハク八ハク。志ハクやハク

○ハク葎ハク。艾ハク子のハク毛ハク。わハクろハクちハクやハク。かハクぶハクくハク

○ハク鴨ハク足ハク坂ハク。岩ハク藤ハク。とハクろハク花ハク。茶ハク引ハク

○ハク草ハク。柏ハクちハク心ハク。卵ハク花ハク。卵ハク木ハク。心ハク相ハク

根ハク卵ハク木ハク。若ハク楓ハク。多ハク葉ハク。多ハク葉ハク乃ハク花ハク。常ハク

○ハクつハクろハク紫ハク。茂ハク子ハク木ハク草ハク。夏ハク木ハク立ハク。常ハク

盤ハク木ハクのハク花ハク葉ハク。桐ハク乃ハク花ハク。義ハク女ハク草ハク

○ハクきハクおハクひハク花ハク。てハクまハクりのハク花ハク。まハクたハクまハク。さハクくハク

てハクろハク毛ハク。山ハク菅ハク乃ハク花ハク。厚ハク朴ハクのハク花ハク。菽ハク藎ハク根ハク

○ハク山ハク菅ハク乃ハク花ハク。厚ハク朴ハクのハク花ハク。菽ハク藎ハク根ハク

○ハク山ハク菅ハク乃ハク花ハク。厚ハク朴ハクのハク花ハク。菽ハク藎ハク根ハク

○高也トモ乃ノ花ハナ日ヒ ○様乃サマノ実ミ日ヒ ○叶エフの子コたぐんるも

○すスの子コ日ヒ ○岩イワ梨リ日ヒ ○落フキ日ヒ ○菖アサギ日ヒ ○蓮ハス乃ノ

○郭カク公コウ日ヒ ○さサ乃ノ花ハナ友トモをよとむらひても及及こ山ヤマ不フ

○かカんンとトるル日ヒ ○ぞゾんン鳥トリ日ヒ ○葭ヨシ原ハラ雀スズメ日ヒ

○蝙ヒツ蝠フ日ヒ ○鹿カのノ袋フクロ角ツノ日ヒ ○梓シ振ヰ虫ムシ日ヒ ○蚊カ

○飯イヒ飯ヒ日ヒ ○梓シ振ヰ虫ムシ日ヒ ○蚊カ

○蚊カ帳テ日ヒ ○卵タマゴもモぐグ日ヒ ○卵タマゴ乃ノをヲ衣ヒ

○短ミカ夜ヨ日ヒ ○一イチ友トモ乃ノ花ハナ日ヒ ○安ア居ニ日ヒ

居ニ於テ親ニ氏ノ要ニ覽ス
委ニ交ニ行ク云フ

傳るしやまおまのむとよめり部なるやさけきの
 むくけとよめりも是といひちあつり風俗通よい長今續後
 今續もいひ五兵と辟る故に辟兵饅頭
 いつり一冊子記よい條をまといつる是あり
 ○薬日クスリヒ 五月五日
と云こ

○茶草摘ツム 薺キツ 苺ヒ 苺ヒ 百
草摘草也 ○ちまき記こしちまきササチマキ
ちまき記

かさりちまき 角黍 角粽 雑粽 糝糝 糝糝
 粽九子粽 高辛氏の菟子五月五日は菟も虎めりも其菟
 と成てくとるややせり或は五色の糸より粽とてあまへり
 五色の砂と成りるゆゑ菟人とするやはらぶともいひ又楚乃
 屈原が汨羅に沈むるを集るとなりちまきとて天福奉るは
 かさり粽とかりちまきとて角黍九子
 ○あづり芋の甲カゲト
粽るとのさほくある由事文類聚

いり 菟の夷吾國とをせりとせりにりて菟はよて戦ひち
 を吉例より甲冑と帯り兵具と謂へ菟と云傳と云かの菟
 古といまはるこも ○艾人ガイジン 蒲人ホト 事文天師と急り日
こもといまはるこも

て門戸の上よりけり 伝ると艾人も蒲人もいり又天師とて人形もあ
 やめのひげと伝るなりて門戸の上よりけり昔もも
 人形と形の上門のちるとけり又天師と急りて郊の
 人の賣りありけれもけり紙をとかきく賣り伝るとて門戸乃
 あまはるこもけり ○艾虎ガイコ といふを
もも虎よよき
て席と伝る

あまはるこもけり 小虎と伝るよりけり
あまはるこもけり 小虎と伝るよりけり
あまはるこもけり 小虎と伝るよりけり
 ○粉團コシ と伝る
あまはるこもけり 小虎と伝るよりけり
あまはるこもけり 小虎と伝るよりけり

故よりいさりの日といふるを思ふまひせおる。さほむらうまきあひ
正日あるいそとひさうとりよし思ふ抄をい左太とのる場とてまに
のり弓つる事ありをを。○**下地**^{イニ} 他世清問答よりまきの小弓と
虎の清村といふ事あり。○**神水**^{スレ} 清子午時ノ雨竹ニ
乃清村とをた。○**かえ成乃**^{カモ}
こふよりやり。○**神水** タル水ノ本葉綱目

競馬 昔日々くまきといひる赤方黒方とてたむよつびてまに
らくまき事ありらちとカハ勝負の木の下とてらちる

と決。○**あよちねおびま** 昔日五日俗人種繁とまりてお
びまのとりて。○**藤木林祭** 他五日神りまの
祭るおわり

況に今まありと於枚抄より。枕草集も種アツクの事とて
よ必五日五日よあよるまもあうといふらとく。○**藤木林祭** 他五日神りまの
種繁とあよあふけりいま。○**藤木林祭** 他五日神りまの
祭るおわり

今人祝五と崇。○**さ月の鏡** 百練鑑揚子江にて地をよ洞と
天と祝了。○**今宮祭** 九日今宮
十五日祭

○**宇治祭** 他八日まきぐりとま事と
いひこちてはる也。○**今宮祭** 九日今宮
十五日祭

○**室乃明神祭** 他十三日
○**両社祭** 日

○**有無日** 他五日貞徳之村上天皇の流國忌之流忌と
天子の流忌日とやま各目也此日大内子

○**取勝講** 東大寺真福寺
近衛寺園城寺

○**賑給** 是日申き民よ
料塩なととら

四ヶの大古れ傍の中に築古のまきあゝあるとまきひて海原とて言ふ
五種と法涼殿より傳きらふ云事根原つまきく某に流海の家とい

よるあるをこの事今年中は事あ合。○**賑給** 是日申き民よ
料塩なととら

よるあるをこの事今年中は事あ合。○**賑給** 是日申き民よ
料塩なととら

あり東中乃條里小海とて掛非遠仗
り者たまりくこねとひく
○位吉の末田殖

廿八日 ○おむらびー 他日
○山田清田扇 ○芒種乃

○節 五月 ○夏至 五月の
中し ○はつき雨 梅の雨

徴雨 仇 聖雲をたはのまに 五月の長よりオニの全乃日より
傲ぬと子由太十草総目子ありすく黄毒返ともいつ

○虎が洞乃返 仇 廿八日 日首 系助成うれる日こそま乃
虎舌お益傷せしぬる子降とかくこ

○祇園お末雲洗 仇 廿日 ○半夏生 五月の中より十日
めあり是日令よ

信りよ世俗よは日つこよりまき
紫のたをふ食といつ
○蝉乃初夢 月令よ及玉
の長にあり

○鴛鴦と入 他日 令よ及玉
とあり 拾芥 無学
○まじ流川 花

○藻乃屯 ○藻とくは 藻刈 ○めと刈 ○萍の

花 ○百合 姫ゆり さゆり花 忍ゆり 仇
情多ゆり 日りのこゆり 車ゆり
○むをまじ花

○さるそう 花 忌 ○宗陽草 四ひ
の屯 ○未摘花 花 紅の

○忌ま草花 萱草 仇 貞徳云と
忌ま草と子草と
○下野の花

○石菖 花 菖蒲 ○金銀花 花 忌
○蕙

○夏菊 ○朝菊 日 朝菊
子菊
○朝露

花 菖 似て
忌ま白と

成へり内膳司よりなるると大膳の
一献酒 こぎけあやふ
ひとよさげと

六月會 四日侍者大伴の忌日なれは延暦ちよ
ておこるる勅使堂山の義武を公事

御待比御ト 十日神祇皮の官人の上の玉待はつし
こわらん事とるるひ奏する事あり公事

月次の祭 土日十二月もあつたれは六月十二月二番後
社へ御幣ととるるせたす事あり公事

神今食 同日くれも年は二に伊勢大社宮を勅使
尸されて天子の御く神餅とせさせ事あり

解齋の法粥 十日神今食の次乃御ひの法社
の大元子よて其堂二御ととる

祇園會 七日春融院天迎二ま六月六日
七日夜祭よりなり委吉公乃付

告ぐこ 孟嘗君の古事なり
こふことひひあむ

月不こ 二ハトリホコ
鶏舂 人形相子

菊水舂 長重と云は非之菊の形ハも相承丸貫也
うまよりてをゆまきまにのり菊の

教下舂 ホウカ
く形あり

舟不こ 神功皇后は破衣千珠満珠
とてまうてと韓と討志

岩戸山 日本紀神代の老乃ありさほおめつちい
まじわれがら所あられらる事の子

佐世はくち由赤きお袋は私布乃流汁物と
そへあり三口食て御箸と云ふ事

はるきさ ○ 終麻山 生不祥をえたるをいふと子居と云う
あり さほとつり或は子終山あり と云井
をほよそくす ○ 鷹山 鷹狩のていこ標おひる人形 ○ 親善
とも云くあり あれい標おひやまとつり

山 ○ 舟がこ 七日の舟がこは大ききあるむくい林の中より
長きとつりいさき由んより今いさきも

一は氏子の風情と申すまづり又下と子おののこよりい
おづつあり 是い定て天五れは下眷秀のなる 山をこを
と云い他り物とて神意といさめなる 世清四巻今い
難式小舎人の威儀はさ一は供をなと云ふ 足おこふこの
あり 厚い御を坊下の靈までいめられ侍り又祇園すさのか乃なる
牛段天五内 武蔵天神より 疫病の神より おり さ乃少
井のみう い稲田姫こよりさい女をやまひま一
ハ大五子あり い葉田口系乃とこよりあるせん

○ 洋崎祭 仇十四日五日舟まありにて扱批打 ○ 扱大田祭
ともは事ありとあり 伝伝

十四日扱及記はさい のとれえととい ○ 竹生崎
仇十五日

祭 同日 ○ 江戸北山王祭 仇十五日大田及薩文明年中は江
戸北山王権現とと助清と云

○ 相国寺せんがう 仇十七日接門ニテ行 ○ 祇園時
松尻と云 鑓鉢と云

祭 仇十五日扱はさち系をいふ神代 ○ かし
八坂乃里と子系たのこもい事(公事) 仇十六日

○ 嘉定食 仇 ○ 嘉定後 仇
カジャウ 世清同着云此事又子本説
あり 只彼後乃後よ嘉定

通宝と伝まの縁とよまやせん と出度す 一季の云今
あり いまいはく のく地さりの後よりめえい米一俵六

幸ふと
伊勢の祭神 仇十六七日出家也
傳り すつとあり ○ 竹多 仇

十六七日
志渡ち祭 仇十七日
座取の涼 仇十九

○ 富士詣 仇一日より廿日
○ 法手洗詣 仇廿日

○ 鞍馬の竹切 仇廿日
○ 聖石十日詣 仇廿四日

○ 橋立祭 仇廿五日
○ 天満天神御稔 仇廿五日

○ 大坂府唐祭 仇廿二日
○ 加賀みみ月能

○ 住吉の法稔 仇廿日
○ 唐崎おくり

手洗いむり。より法稔の心は住吉に神代よいさきとけき日向の心
のときがわつたて法稔の心は住吉に神代よいさきとけき日向の心
舟渡おりのめひてくはまは法稔といふ事には氏乙女をにき節
の倉崎よりそくきし事ありくまの年のまはして今もみまを
はきあるとまよて ○ 節折 仇廿日 上上の節はけのす法
傳りまるとし ○ 節折 仇廿日 上上の節はけのす法
よおるといふに節折の命は竹とてまうて御はけのす法
とよりままにきまはけりて法稔と勉る事あり(公事)
○ 大稔 仇廿日 法稔の心は住吉に神代よいさきとけき日向の心
あつとむりくむりく百官とくく朱崖門よ出る
らくもあつたこりくもつり 麻の葉ときりてぬきとく
をくくはけぬ(麻と) ○ 形代 仇廿日 法稔の心は住吉に神代よいさきとけき日向の心
をくくはけぬ(麻と) ○ 形代 仇廿日 法稔の心は住吉に神代よいさきとけき日向の心

これと
○茅の痛カサ 是牛乳天と後民に來よなるの事と云はし
云く 疫病をやらんとするとき後民に來よ子孫に

と云ひて茅の痛と云ひは疫病との事なりと
の久く久しき今も後茅の痛と云ふあり ○反神樂ナツカシラ

○川社カハ 是も反後茅の痛に相をかきて神と云ふ事とあり
袖中抄よあり 反神樂の付もいなり

○小蠅カバ 負法云蠅乃と云く恐神多と云ふ事とあり
あはくくもと云ふ事とあり

とぞするともありさなり ○徳火祭ヒレツメ 此日ト部氏の火と云ふ
る事本在日奉紀

○乃郷食祭ニナアヘ 日四角四境の事なり
ト部人始の四方の事なり

あは火災と云ふ事 ○乃郷食祭 日四角四境の事なり
たれとあり云事

○施米セイ 东山西山山などの心ちれらるる地は所を米
塩とおほやけする事あり (王事)

○雷カニナリの陣チン 雷の鳴るに及ぶる事あり
将まで鳴らぬと云ふ事あり (王事)

て帝と云は後一なる事西言記に六月の事なり
のせし事はとて公事根原も六月の事なり

○温風ウン 日令 ○驚羽オドロ 日令 ○大暑オホシユ

○節フ 六日の ○腐草カウ 螢と云ふ日令 ○溽暑チヨクシヨ ○あひ

き日 ○夕立ユフダテ 日令 大ぬけなりと ○天貺テンケイ 節セツ 六日 宋ソウ

符四年小ことゆりして六月六日 ○三サン 伏フク 日と初伏といひ也四
と天貺節と云ふ事言故事

と天貺節と云ふ事言故事 ○三サン 伏フク 日と初伏といひ也四

の庚と中伏といひ立秋の候は家初の庚と未伏といふこれと云伏といふ
の庚と中伏といひ立秋の候は家初の庚と未伏といふこれと云伏といふ
の庚と中伏といひ立秋の候は家初の庚と未伏といふこれと云伏といふ
の庚と中伏といひ立秋の候は家初の庚と未伏といふこれと云伏といふ

○土用于伏中于○扇扇

○汗拭汗拭○簞竹奴竹婦人脚言

○涼涼○風風○雲峯雲峯

○清水清水○ちりちり○井井

○あさあさ○地酒地酒○猪油猪油○猪猪

○洗洗○ぼとぼと

○先兆先兆○悔悔

○復切復切○糸糸

○川川○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○梅梅

○子^{サモ}楸^ハは ○楊梅^{ヤマモ}は ○李^{スモ}は ○林檎^{リンシ}は ○百日紅^{ハシジロコウ}は ○梅^{ウメ}

子^コ ヤチとてつゝこかゝるゝと川原梅子^{川原梅子} 佐 ○蓮^{ハナス} 荷葉^{ハス} 佐 実^ミ 佐 ○浮浮^{フモ} ○何^{ナニ}

い花^{ハナ} 実^ミ とをましてある少^{オウ} 子^コ をまそのい^イ 花^{ハナ} 佐 ○蒲乃植^{ハチ} 佐 ○海松^{ウメ} みぎら

骨^{ホネ} ○菱の花^{ヒシ} 佐 ○蒲乃植^{ハチ} 佐 ○海松^{ウメ} みぎら

○蘭^{ラン} と刈^カ 植^ウ 子^コ 佐 ○珠線花^{テツセン} 佐 ○眼皮^{ガン} 佐

凌宵花^{ノウセン} ○きざし^{キザシ} ○きつらん草^{キツラン} ○柿^{カキ}

里^{サト} 子^コ の道^{ミチ} ○村干^{ヤカン} 一^{ヒト} 洗^シ 子^コ 佐 ○紫蘘^シ ○杏^{アヲ} 尾^オ 灯^{ツキ}

○麻^{アサ} 檉^シ 麻^マ 花^{ハナ} の様^{サマ} 子^コ 似^ニ 方^{カタ} 之^シ 反^{ヘン} 苧^ソ 及^キ 別^{ベツ} の糸^{イト} 佐 ○香薷^{カウ} 散^{サン} ○蒜^{ヒシ} 乃^ノ 根^ネ ○瓜^{ウリ} 喜^キ 瓜^カ 佐

多^タ 瓜^カ あこ^{アコ} 子^コ 佐 ○夕^{ユフ} 款^{カホ} ひさ^{ヒサ} 子^コ 佐 ○昼^{ヒル} 顔^{カホ} の^ノ 毛^モ ○小^コ

角^{カク} 豆^{トウ} ○祢^ネ ひ^ヒ 衣^イ ○蝉^{セミ} うら^{ウラ} 子^コ 佐

○可^カ 反^{ヘン} 虫^{ムシ} 子^コ とこ^コ 乃^ノ とよ^{トヨ} む^ム 蚊^カ 火^ヒ とり^{トリ} 虫^{ムシ} 佐

○蠅^{ハエ} ○秋^{アキ} 乃^ノ 浮^ウ 萍^{ヒラ} 秋^{アキ} 乃^ノ 浮^ウ 萍^{ヒラ} 佐

○蠅^{ハエ} ○秋^{アキ} 乃^ノ 浮^ウ 萍^{ヒラ} 秋^{アキ} 乃^ノ 浮^ウ 萍^{ヒラ} 佐

增續山井四季之詞上之終



